

★ 三重県 小林圭二

《質問》

- 日臨技役員有給制についての諮問が答申されたが、その結論はどうなったのかご紹介して頂きたい。会長を三重県に招聘した折、講演料も辞退される現状に再考願いたい。

【回答：小崎】

- 答申を頂いた時は、予算を終えていました。理事会、皆様のご意見をもらって、今後決めていきたいと思えます。

★ 北海道 高野良二

《要望》

- 検査業務及び職域の拡大について要望します。検査技師は検査するだけではなく、例えば糖尿病療養士などのセカンドライセンスを取ることで患者に「指導」や「説明」が可能になってきています。そこで、特定健診における保健指導は臨床検査技師でも、健康運動指導士のライセンスをとることで可能です。しかし、臨床検査技師のスキルでは、このセカンドライセンスは不要と考えます。技師会で認定制度や何らかのライセンス、教育によって、臨床検査技師による保健指導が可能であるように法改正に努力して欲しい。理学療法士も入っていませんので、見直しがあるかと思いますので、よろしく願います。

【回答：小崎】

- 保健指導という名称で実施しているわけではないので、難しさはありますが、検査データを説明する点ならば可能かと思えます。先日行った医療系の国会議員と私どもの話しで、メタボ健診についても色々問題があるということが分かってきましたので、その中で出来るものがあれば積極的に運動して参りたいと思えます。

★ 岐阜県 一柳好江

《質問》

- (各種委員会) 女性部会の活動状況を会員に知らせて頂きたい。今後の方針についてもお考えを報告して頂きたい。

《要望》

- 少子化社会の中で若い女性が結婚・出産をするなかで不利益を受けないよう日臨技としてバックアップして頂きたい。技師会に入会していない会員を社会参画するバックアップし、会員に入会してくる様な活動が望まれるのではないかと思います。

【回答：小崎】

- わかりました。

★ 奈良県 山本慶和

《質問》

- 臨床検査振興協議会への負担に対して技師会としての基本的方針についてお聞きしたい。
- (特定健診に関わる) 未病システム学会において未病認定指導士を立ち上げる計画があるが、日臨技はどのように考えているか。

【回答：小崎】

- 振興協議会には、技師会も部分的に参画はしており、重要な部分として診療報酬と広報に入っております。今後、相手の執行部が交代もしており、これから理事会等で話し合い、対費用効果を見ながら、また当初は徴収したお金の 60%以上が人件費に掛かっているなど問題があり、現状を確認しながら必要ならば協力していくようにしたいと思っています。
- 相手学会からコンタクトがありません。

【高木義弘】

平成 20 年度 精度管理調査参加施設

平成 20 年度精度管理調査参加申し込み施設がまとまった。今回は、Web での申込は、1,552 件、F D での申込は 1,932 件で、合計 3,484 件となり、159 施設が増加したこととなる。その内訳は、◎基本項目：3,204 件、◎微生物：1,298 件、◎遺伝子：195 件、◎HbA1c：2,500 件、◎輸血 A：601 件、◎輸血 B：1,494 件、◎病理：1,103 件であった。

今年度は、輸血検査を A、B の 2 コースとした。結果、A コース (血液型判定) に 601 件の申し込みがあり、2 分した目的は達成された感がある。

一方、平成 20 年度の診療報酬改定による「検体検査管理加算」の申請要件に“微生物検査 (グラム染色)”が加わったことによる、問い合わせが多くあった。その中には、県の社会保険事務所からのものも数件含まれていた。社会保険事務所としては、微生物の外部精度管理調査に参加していない施設は申請を許可出来ず、日臨技精度管理調査はその担保は可能かという質問であった。

現在では、臨床検査のほとんどの項目を網羅している外部精度管理調査は日臨技以外には現在では見当たらず、その点では評価できるものと考えられる。来年度に向けては、輸血検査と同様に微生物検査のコース別の検討を開始しており、来年度は更に会員の要望に応えることの出来るものとなることは間違いない。

また、日臨技が行っている“各種認定制度”あるいは“特定健診”などの検査に対応できる調査を充実する必要もあると考えられることから、すでに開始しているデータ標準化事業とのマッチングを検証しつつ、事業推進を図ることとなる。

そのためにも、臨床検査を担う検査室の責任として、また、臨床検査技師の責任としてデータの精度管理に取り組むことが重要であり、それが基本的姿勢であることに間違いはない。

